

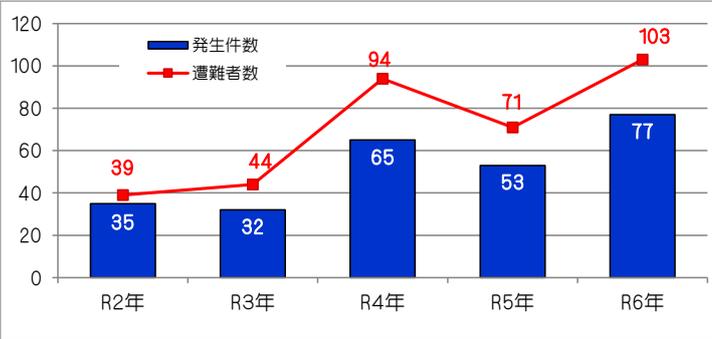
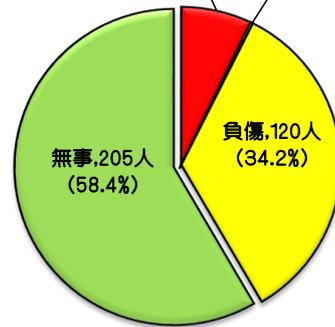
冬山シーズンにおける山岳遭難発生状況(北海道)

(冬山シーズンは、毎年11月から翌年3月までの間)

□ 冬山遭難発生状況(過去5年冬山シーズン)

	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	計
発生件数	35	32	65	53	77	262
遭難者数	39	44	94	71	103	351
死亡	3	2	13	6	1	25
行方不明	0	0	0	0	1	1
負傷	16	11	23	30	40	120
無事	20	31	58	35	61	205

遭難者の態様別
死亡, 25人 (7.1%)
行方不明, 1人 (0.3%)



■ 過去5年の冬山シーズン中、道内で発生した山岳遭難の発生件数は262件、遭難者数は351人でした。
■ 令和6年の発生件数は、過去5年間で最多となっており、前年と比較すると、約5割増加しました。
(令和6年冬山シーズンは前年比+24件、+32人)

□ 月別遭難発生件数(過去5年冬山シーズン)

年	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年	6	3	10	14	2	35
令和3年	1	6	9	10	6	32
令和4年	4	7	17	17	20	65
令和5年	1	7	11	24	10	53
令和6年	1	6	25	30	15	77
計	13	29	72	95	53	262

過去5年間の冬山シーズン遭難発生状況を月別で見ると、1月と2月に発生が多く、発生件数は、2か月間で全体の約6割を占めています。



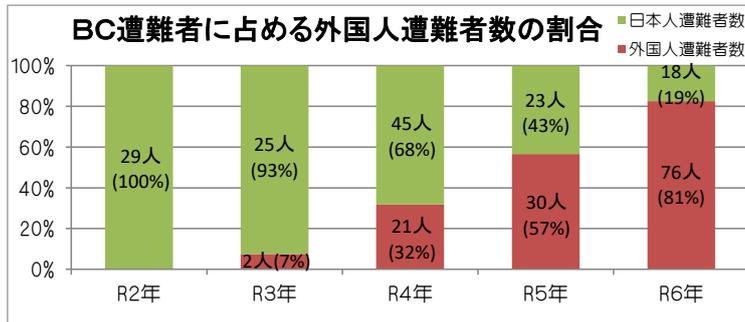
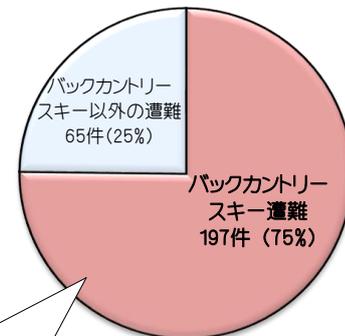
□ 月別遭難者数(過去5年冬山シーズン)

年	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年	7	4	11	15	2	39
令和3年	1	9	12	11	11	44
令和4年	5	13	27	19	30	94
令和5年	1	7	12	30	21	71
令和6年	1	8	29	46	19	103
計	15	41	91	121	83	351

□ バックカントリースキー(BC)遭難発生状況(過去5年冬山シーズン)

	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	計
発生件数	26	19	43	39	70	197
遭難者数	29	27	66	53	94	269
外国人遭難者数	0	2	21	30	76	129
死亡	3	0	5	5	1	14
行方不明	0	0	0	0	0	0
負傷	13	5	13	24	33	88
無事	13	22	48	24	60	167

バックカントリースキー遭難発生件数の割合(過去5年冬山シーズン)



■ 冬山シーズンの遭難は、バックカントリースキー遭難が全体の約8割を占めています。
■ 令和6年冬山シーズンの外国人遭難者は76人で、前年と比較すると、約2.5倍となっています。

□ 遭難者の原因別人数(過去5年冬山シーズン)

	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	計
遭難者数	39	44	94	71	103	351
道迷い	14	24	50	16	38	142
転倒	4	2	12	7	18	43
滑落	1	3	4	4	4	16
転落	1	0	0	1	1	3
熱中症	0	0	0	0	0	0
低体温症	0	0	0	0	0	0
疲労	0	1	0	1	2	4
病気	0	0	1	0	1	2
悪天候	0	3	2	4	11	20
雪崩	4	4	3	13	2	26
その他	14	7	16	22	25	84
不明	1	0	6	3	1	11

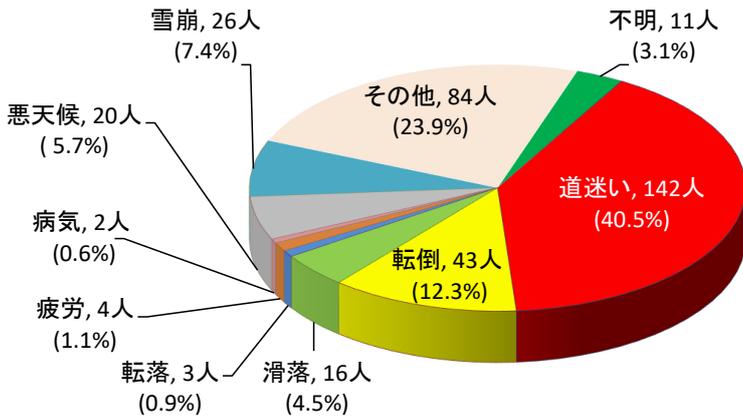
冬山シーズンにおける遭難原因の中で最も多いのは、道迷いによる遭難で全体の約4割を占めています。冬季は登山道が積雪で埋まり、進む方向を見失いやすく、また、吹雪等の悪天候で、視界が真っ白に包まれる「ホワイトアウト」の状態に陥ることもあることから、ハンディGPSなどの道迷い防止対策装備を携行しましょう。

近年、スマートフォンの地図アプリを活用する登山者が増えていますが、冬季は外気温が低くバッテリーの消耗が激しいため、モバイルバッテリー等を携行しましょう。

スキー場管理区域外は、整備されておらず、立木への衝突や雪崩などの危険があります。スキー場を利用する際は、スキー場のルールに従ってください。

過去5年冬山シーズンの遭難原因上位

- 第1位 「道迷い」(142件)
- 第2位 「その他」(84件)
- (その他～立木衝突、深雪による行動不能等)
- 第3位 「転倒」(43件)

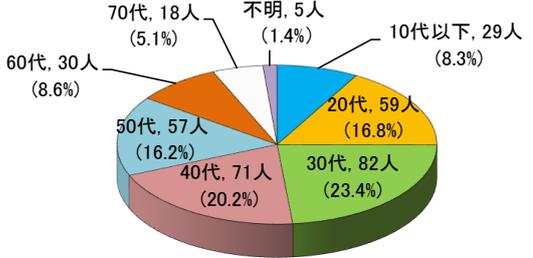


スキー場の遵守事項を守りましょう!

山岳遭難者の年代別内訳(過去5年冬山シーズン)

□ 遭難者の年代別内訳(過去5年冬山シーズン)

	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	計
遭難者数	39	44	94	71	103	351
10代以下	1	3	18	6	1	29
20代	6	3	12	15	23	59
30代	10	11	23	13	25	82
40代	8	14	15	15	19	71
50代	9	7	13	16	12	57
60代	4	3	9	2	12	30
70代	1	3	4	4	6	18
80代以上	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	5	5



※ 冬山シーズンの山岳遭難者を年代別で見ると、30代が最も多い。

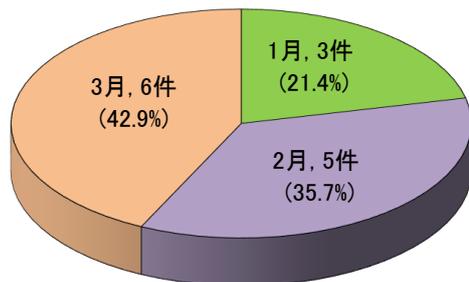
冬山シーズンの遭難者は、20代から50代が全体の約8割を占めています。夏山シーズンの遭難者は60代、70代が多いですが、冬山シーズンは幅広い世代で遭難しています。

□ 雪崩を原因とする山岳遭難発生状況(過去5年冬山シーズン)

	発生年月日	発生場所	遭難者	死傷等別
1	令和3年1月26日	1107峰(赤井川村)	1	死亡1
2	令和3年2月28日	上川岳	2	負傷1、無事1
3	令和3年2月28日	余市岳	1	死亡1
4	令和4年3月5日	富良野岳	4	負傷1、無事3
5	令和5年1月13日	羊蹄山	1	死亡1
6	令和5年3月5日	羊蹄山	1	死亡1
7	令和5年3月5日	ペケレベツ岳	1	死亡1
8	令和6年1月1日	羊蹄山	1	負傷1
9	令和6年2月28日	狩場山	1	負傷1
10	令和6年3月3日	利尻山	7	死亡1、負傷3、無事3
11	令和6年3月11日	羊蹄山	3	死亡2、負傷1
12	令和6年3月11日	イワオヌプリ	1	負傷1
13	令和7年2月2日	ペケレベツ岳	1	負傷1
14	令和7年2月20日	1107峰(赤井川村)	1	負傷1

11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	3	5	6	14

雪崩遭難の発生した月(過去5年冬山シーズン)



過去5年冬山シーズン中に、雪崩を原因とする遭難は14件発生していて、そのうち2月と3月の2か月間の発生が11件で、全体の約8割を占めています。

雪崩が発生するおそれのある斜面には近づかず、万が一、雪崩に巻き込まれた場合に備えて、ビーコン、プローブ、ショベル等の雪崩対策装備を携行しましょう。